Journal of The Human Development Research, Minamikyushu University 2016 ,Vol. 6 ,117-120

報告

環境教育センター活動報告

遠　藤　　晃

1．地域と連携した環境教育の推進

（1）都城市環境政策課との連携

都城市環境政策課からの協力依頼を受け、平成26年度より、同課が行う都城市内の小学校における水辺環境調査のサポートに学生が取組んでいる。この事業は、宮崎県主催「身近な水環境に関する学習会実施要領（未来につなぐ水資源・水環境の保全推進啓発事業）」の一環として、県内のいくつかの小学校で実施されるもので、今年度は、5月19日（火）に宮崎県環境管理課が衛生環境研究所で実施した「水辺環境調査研修」を子ども教育学科４年生４名が受講し、都城市立安久小学校及び有水小学校の水辺環境調査をサポートした。なお、平成26年度は子ども教育学科４年生２名が県の研修を受講し、明和小学校及び勝岡小学校の授業サポートを行った。授業サポートの詳細については後述する。

（2）綾町における親子向け森林環境教育プログラムを提供

３月６日（日）に、ユネスコエコパーク綾町で開催された「森のめぐみの工作＆散策」に、子ども教育学科の学生有志が創作した森林環境教育プログラム「薪すとーぶ」を提供した。このイベントは、綾の照葉樹の保護に長年取組んでいる、一般社団法人てるはの森の会が「木育」の一環として企画したもので、親子10組が参加し、木工教室と綾の照葉樹散策を行った。

その準備のため、学生たちは定期的に集まり、参加者の年齢や綾の照葉樹林に併せたプログラムのアレンジに取組んだ。２月24日には学生自身が薪割りと薪ストーブを燃やす体験。２月27日には会場となる綾町川中公園を訪問し、プログラムのイメージを膨らませた。「この活動の到達点は？」「導入の在り方」「アイスブレークを入れたら」など、学生たちは活発な議論をしながら、だんだんと形を創り上げていった。イベント当日の様子はあらためて報告する。

環境教育センターでは、このような、学生たちの「学びのプロセス」をサポートしている。

2．小学校の環境教育サポート

（1）安久小学校の環境教育サポート

５月26日に、安久小学校４年生の環境教育の授業を、南九州大学の学生がボランティアスタッフとしてサポートをした。これは都城市環境政策課の依頼を受けて、宮崎県主催の小学校向け出前授業「身近な水環境学習会」を、南九州大学の学生がボランティアスタッフとしてサポートしているもので、昨年度の明和小学校、勝岡小学校に続き３回目となる。５月19日に宮崎県環境管理課が主催した「水辺環境調査研修」を受講した学

生２名が、それぞれ10名ほどのグループを担当し水質調査や水生生物調査の指導を子どもたちに行った。専門家と教育現場をつなぐことは、環境教育センターのひとつの大きな役割である。

(2) 都城市梅北小学校の環境教育をサポート

都城市立梅北小学校より依頼を受け、８月28日（金）、同小学校の総合的な学習の時間に、教員志望の学生２名と本学環境教育センター所属の教員２名が、学生たち創作の環境教育プログラム「薪すとーぶ」の実施で協力、６年生の環境教育の授業をサポートした。これは「ESDとアクティブ・ラーニングの視点から、単なる知識ではなく、子どもたちが自分自身の問題として環境について考える授業にしたい」という小学校の依頼で実現した。当センターでは、このような実際の教育現場での教育活動を通して、教員志望の学生がESDやアクティブ・ラーニングを体験的に学ぶ場をつくっている。教員養成の段階でそれらを学び、実際に授業ができる教員に育ってもらうことがその目的である。

(3) ユネスコスクール綾小学校の環境教育を学生がサポート

県内唯一のユネスコスクール小学校、綾小学校の４年生が９月18日（金）の総合的な学習の時間に地域の水質調査に取り組み、人間発達学部の４年生３名がサポートした。ユネスコスクールは、文部科学省と日本ユネスコ国内委員会が「ESD*の推進拠点」と位置づけ、綾小においても子どもたちが主体的・協働的に課題解決学習（アクティブ・ラーニング）に取り組めるよう、先生方はESD的視点で総合の授業をされている。参加した学生は、子ども達の座学にはない目の輝きに驚いた様子だった。

*Education for sustainable developmentの略。「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」と解釈できる。

(4) 丸野小学校の環境教育を学生がサポート

都城市立丸野小学校の４年生が10月２日（金）の総合的な学習の時間に、校外探険活動を人間発達学部の２年生２名がサポートした。丸野小学校では、総合的な学習の時間に、近くの田畑や用水路の中の自然を題材とした、主体的・協働的な課題解決学習に取組み、環境教育センターでは当初より、校外活動などのサポートをしている。この学習に小学校の教員志望の学生が参加することで、アクティブ・ラーニングの実践的な指導法を学ぶ良い機会を与えていただいている。

3. Mini-Café「学校教育とESD」学習会の開催

これからの子供たちには社会の加速度的な変化の中でも、社会的･職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められている。

今、このような能力・資質を育成するために、児童生徒が主体的・協働的に課題発見・解決に取り組むアクティブ・ラーニングの有効性が注目され、教育プログラムとしてのESD（持続可能な社会の担い手を育成する教育）が、学校教育でも取り組み始められている。学習指導要領の次期改訂でも、大学の教育改革でも、重要性を増しているアクティブ・ラーニング。能力・資質を育成するための教育プログラムとしてのESD。教室で教師はどのようにアクティブ・ラーニングを展開すれば良いのだろうか？ ESDとアクティブ・ラーニングはどのような関係があるのだろうか？

Mini-Caféでは、参加者とともに、これからの学校教育を考えていく。

（1）環境教育センター主催　Mini-Café1「総合的な学習とESD」に関する情報交換会

8月11日（火）に環境教育センターで「総合的な学習とESD」に関する情報交換会（Mini-Café1）を開催しました。ESD（持続可能な開発のための教育）とは新しい時代の担い手を育成する教育プログラムです。その担い手に求められる資質・能力とは……基礎的な知識・技能を習得し、その知識・技能を活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、更に実践に生かしていける。これは、現行の学習指導要領（文科省）が示す「確かな学力」と一致する。

学校教育では、ESDが取り扱う「人権」「環境」「国際理解」などの内容はすでに教科書に散りばめられている。忘れられがちなのは「身に付けた知識や技能をフルに活用して課題を解決する場の設定」だ。その「場」として重要になるのが、教科横断的に課題解決学習に取り組む「総合的な学習の時間」（小学校では併せて「生活科」）。今回のMini-Café1では、総合的な学習の時間に「身近な自然を活用した主体的・協働的な課題解決学習」に取り組んでいる都城市内の小学校の先生方にお集まり頂き、これから取り組もうとしている先生や教員を目指す学生も参加して、情報や意見を交換した。

（2）環境教育センター主催　Mini-Café2「学校教育とESD」学習会の開催

9月30日（水）、環境教育センターにおいて、タイトルを「学校教育とESD」、テーマを「アクティブ・ラーニングの場としての総合的な学習の時間」とした学習会を開催した。

まず人間発達学部の谷村佳則准教授による、福岡教育大学で開催されたばかりのESDセミナーの報告。続いて都城市内の現職の小学校の先生による、総合的な学習の実践事例の紹介。参加者は現職の小学校の先生、先生をめざす学生、本学教員などで、今後それぞれの現場においてアクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネジメント、そしてESD的視点といった要素が不可欠になって来ることを、より強く実感できるものとなった。

（3）環境教育センター主催　Mini-Café3「学校教育とESD」学習会の開催

2月17日（水）、環境教育センターにおいて、タイトルを「学校教育とESD」、テーマを「学校教育におけるアクティブ・ラーニング－教室でどのように展開するのか－」とした学習会を開催した。学習会では、まず当センター主任の遠藤が、次期指導要領の改訂に向け昨年8月に文科省から提示された「論点整理」の要点の説明と、1月に行われた横浜市立日枝小学校での研究大会および

ユネスコスクール・江東区立八名川小学校でのパワーアップ交流会の報告をおこなった。

次期指導要領改訂の大きなキーワードとなるアクティブ・ラーニングとカリキュラムマネジメントに、小学校における「総合の時間」を核とした学校改革の先駆的な取り組みをしている二校のそれぞれの事例に、参加者は、それぞれの立場でのアクティブ・ラーニング、そしてESDとの関連と照らし合わせながら熱心に聞き入っていた。その後、都城市内の小学校におけるESDの視点に立った総合的な学習の時間の実践事例として、梅北小学校の河野先生が事例を発表した。参加者からは、具体的な進め方についてなど質問が相次いだ。

今回の学習会は、南九州大学宮崎キャンパスと都城キャンパスとの間をTV会議システムでつないだことによって、参加者は、両キャンパスの本学教員11名のみならず、都城市および宮崎市内の小学校の先生方にも多数参加していただくことができた。